特集

日本フードサービス協会（JF）
創立35周年記念式典

10月22日　於 ホテルオークラ東京

10月に創立35周年を迎えた社団法人日本フードサービス協会は、10月22日午後2時半よりホテルオークラ東京にて下記の次第で記念式典を執り行い、上原征彦明治大学大学院教授の記念講演を拝聴した後、午後5時半より記念パーティーを開催した。

- 田沼千秋協会会長式辞
- 農林水産大臣祝辞（高橋博総合食料局長代読）
- 田沼会長による35周年記念事業プレゼンテーション（JFイメージDVDの放映、「われわれの誓い」朗読等）
- 高橋総合食料局長より農林水産大臣表彰、田沼会長より協会会長表彰
- NRAハドソン・リール氏より協会に「友好の楯」授与
- 奥住正道協会ファウンダー・顧問挨拶

前列はJF草創期の歴代会長・副会長と奥住ファウンダー協会顧問

田沼千秋 協会会長式辞

社団法人日本フードサービス協会は昭和49年に発足し、今年で創立35年を迎えました。一口に35年と申しましても大変な歳月です。食に携わる業界団体がこれほど長きにわたって存続し、数々の足跡を刻むことができましたのは、言うまでもなく会員各位の皆様のご尽力によるものです。同時にお客様、お取引先の皆様、また農林水産省、関係省庁ならびに関係の皆様方のお力添えの賜です。厚く御礼を申し上げます。

協会創立当時、外食産業は5兆円にも満たない規模でした。それが今や24兆4000億円、店舗数72万4000店、従業員数はなんと412万人と、東京都の人口の1/3に匹敵します。私どもは今や日本の雇用と地域経済を支える文字通り存在感のある大変大きな産業となっております。

協会が発足した昭和49年は、忘れもしない第一次オイルショックの直後で、日本は戦後初のマイナス成長を経験しました。長く続いた高度成長経済が終わり、国民の価値観も変わっていく時期でした。そのような状況の中で、個々の外食企業では解決できない様々な社会的な問題や課題が噴出してまいりました。みんなで共通の問題の解決に取り組んで外食産業を一つの産業として確立するために、協会の設立が必要でした。

その後、私どもは協会の福利厚生面の制度整備にも力を注ぎ、JF厚生年金基金およびJF健康保険組合を設立しました。また、農業との連携を進めて生産者の方々へのメッセージを発信したり、教育研修制度の充実を目指して外食産業教育研修機構を発足させました。さらに、日本フードサービス学会の設立に参画し、学術研究者の方々との交流を図るなど、業界向上のために様々な努力をしてまいりました。これらはすべて協会の諸先輩方のお力があったおかげです。今日この日を迎えることができたことに心より感謝を申し上げます。

この歴史と伝統を強い味方にしながら、私どもは現在直面している課題に真正面から取り組み、これからの新しい時代にあった外食産業を続けていく決意です。もとより外食産業の原点はお客様に食とサービスを提供することですが、時代の変化とともに外食に対する社会の要請は変わってまいりました。私どもの外食産業界はこれからの20年30年先を見据えて、次のような課題に取り組んで参る所存です。

まず一つ目は、お客様の食の安全への懸念に対して、食の信頼を確保するためにたゆまぬ努力をしていくことです。食に関わるあらゆる業界関係者が、一つのバックボーンとして、健全なコミュニケーションのもとに食のリスクについての合意を形成することが重要です。我が業界は35周年を機に、先般、食の安全・安心財団を立ち上げたところです。

二つ目は、食と農の連携をさらに考えたいということです。将来、地球規模での食料需給が逼迫してくると言われている中で、日本の食料自給率は41%、裏を返すと6割は外国産の食材に依存しているのです。したがって、お客さまに豊かで健康的な食事を提供していくとともに、食を通して学んでいくという姿勢も大切ではないでしょうか。農林水産省や農林水産業界、加工技術業界の方々とも連携して取り組んでいくことが大変重要だと思います。

三つ目は、雇用の創出や環境問題への取り組みを通して地域社会の発展に貢献することです。従業員のみなさんが意欲を持って明るく働ける職場づくり、環境づくりが、実はお客様への最高のサービスです。また地球温暖化防止は世界中の大きな課題です。

四つ目は、我が業界も生産者から消費者に至るまでの食の流れの一員ということで、あらゆるパートナーと信頼という固い絆で結ばれるように努力してまいりたいと思います。お客様に美味しい食事を提供するだけでなく、食を楽しみ、語らい、憩う、楽しい時間とくつろぎのある空間を提供し、お一人お一人に幸せを感じていただくことも私どもの使命です。ホスピタリティ精神に裏付けられたサービスの実践を通して、よりいっそう地域社会に溶け込んで参りたいと思います。

今は大変厳しい経済環境ですが、そうした中でも新たなビジネスチャンスがいろいろと出てきております。若い経営者の方々が新しい感覚で事業を立ち上げております。時代の転換の中でも外食産業は多くの可能性と夢のあるすばらしい業界だと確信しております。ここに協会創立の精神に立ち返り、チャレンジ精神のもと会員一丸となって果敢に取り組んで参りたいと思います。

本日ご出席の皆様ならびに関係者の皆様には重ねて35年に渡るご支援に感謝申し上げるとともに、是非これからも引き続き一層のご指導を賜りますようお願い申しあげるとともに、会員各社のさらなるご発展を祈念いたします。

赤松広隆 農林水産大臣祝辞

社団法人日本フードサービス協会創立35周年記念式典が開催されるに当たり、一言お祝いの言葉を申し上げます。

貴協会は、我が国の外食産業の健全な発展を図り、もって国民の食生活の向上に資することを目的として、外食産業が大きな成長の兆しを見せ始めた昭和49年10月に設立され、以来、35年にわたり、業界の発展に向けた様々な活動を積極的に展開され、今や外食産業界を代表する団体として大きく成長してこられました。

これもひとえに、歴代会長をはじめとする会員の皆様方の御尽力のたまものであり、深く敬意を表する次第であります。

今更申し上げるまでもなく、中食（なかしょく）産業を含めた広義の外食産業は、食料向け最終消費額の約4割を占める産業であり、農林水産物の重要な供給先として、また、国民への食料の安定供給を確保する上で、その担う役割は、大変重要なものとなっております。

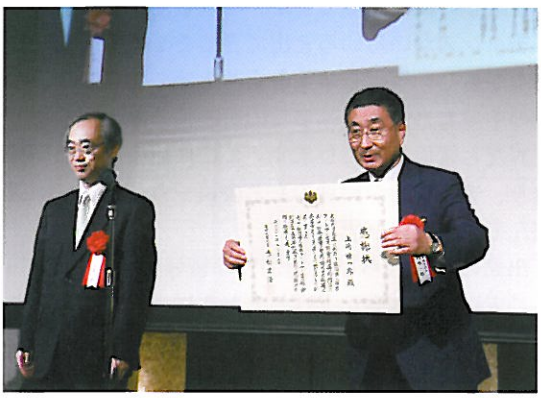
また、35年という歳月を振り返りますと、我が国の食生活は、劇的に変化し、消費者は、豊かでバラエティに富んだ食の選択ができるようになりましたが、この背景には、貴協会の御尽力の下、外食産業が、消費者ニーズの変化に応え、豊かで安心できる食生活の提供に取り組まれてこられた成果によるところが大きいと承知しております。

私は、日本各地で生産された安全で美味しい食料を、国民の皆様に責任を持ってお届けし、健康で豊かな食の実現を図りたいと考えておりますが、その実現を図る上でも、外食産業をはじめとする食品産業は非常に重要な役割を担っております。

特に、貴協会では、農林水産物の産地との交流会を開催するなど、外食産業と農林水産業との連携の構築に大変熱心に取り組まれており、また、消費者、企業、団体などの関係者が一体となって国産農産物の消費拡大を推進する国民運動「フード・アクション・ニッポン」に、貴協会や会員企業が推進パートナーとして登録いただき、我が国の食料自給率の向上に向けた取組に御協力いただいていることに感謝の意を表する次第です。

農林水産大臣としての私の使命は、水・緑・環境を維持するとともに、農林漁業とその重要なパートナーである外食産業をはじめとする食品産業を活性化して、「食と地域」を再生することにあります。今後とも、このような視点に立って新たな施策を推進してまいりたいと考えておりますので、御理解と御協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、貴協会及び会員の皆様方が、本日の35周年記念式典を機にますます結束を固められ、外食産業の一層の発展に御尽力されますようお願い申し上げますとともに、皆様方の御健勝と御発展を祈念いたしまして、私のお祝いの言葉といたします。



農林水産大臣表彰を受けた皆さん。（左上より時計回りに）田中博㈱京樽元代表取締役社長、田沼千秋㈱グリーンハウス代表取締役社長、田邊清八郎㈱銀たなべ代表取締役社長、佐竹力総㈱美濃吉代表取締役社長、後藤四郎㈱ハチバン代表取締役社長、櫻田厚㈱モスフードサービス代表取締役社長、及び高橋博農林水産省総合食料局長（向かって左）より7人を代表して賞状を受けとる上嶋棟一郎スエヒロ商事㈱代表取締役社長。

奥住正道 協会ファウンダー・顧問挨拶

今日は35周年の式典ですので、大変懐かしいお顔を拝見することができました。35周年は本当にありがたいなという思いでございます。

皆様のお手元にございますプログラムの9ページをお開きいただきますと、そちらにＪＦの歩みが全て書かれてございます。歴代の会長ならびにそれぞれの年度における活動の状況が簡明に書かれております。これを拝見しますと、35年前のJFの創立当時に会長をしておられた不二家の藤井さん、副会長の森永キャンディーストアの廣瀬さん、吉野家創業者の松田さん、今日表彰を受けておられた京樽の田中さん、銀座アスターの太田さん、ニュートーキョーの速水さんなど、JFの立ち上げに一生懸命ご尽力された方々のお名前がずらりと並んでおります。

田中さんとは長いことお目にかかっておりませんでしたので、はじめのうちはどなたかよく分からなかったのですが、お話をさせていただきますと、だんだんと昔の強者（つわもの）の面影が戻ってまいりました。今日お集まりの方々は皆様いろいろな意味で懐かしく、また皆様力強い方々でございました。

本日、この35周年の式典には三代目会長をお勤めになりました日本ケンタッキー・フライド・チキンの富田さん、四代目の日比谷松本楼の小坂さんをはじめ、こういった歴代の会長・副会長さんが大勢お揃いになっております。こうした方々の大変なご苦労ご心労があって今日ここに盛大な35周年を迎えることが出来たものと深く感謝を申し上げる次第でございます。

しかし協会の会員や役員の方々だけが力を発揮したからここまでこられたというわけではございません。農林水産省をはじめ関係省庁やお取引先の方々、何よりもお客様が私どもの主張をきちっと理解してくださったから、今日のこの盛大な35周年を迎えることができたのではないかと思います。

思い返しますと、35年前のフードサービスは水商売と言われている時代でした。そこで先ほど申し上げた初代の方々が力を合わせ、フードサービスを産業化することが最大の目標でございました。産業化することによってお客様により美味しい物を提供する、より楽しい時間をエンジョイしていただく、そういう産業になっていこうではないか、というのがその当時の思いでございました。どうやら今、それに少し近づいたようでございます。

しかしこれからの外食産業には大きな課題が残されております。外食産業界の未来はいくつかあります。

一つは、今までも申し上げてきたことですが、我々のビジネスは「People Industry」であるということ、人間産業であるということです。人間産業であるということは、働いている従業員が「本当にこの仕事に就いてよかったね」と言い、さらには経営者の方はもちろんでありますが、お客様にも「本当にこの店に来ておいしかった、また来たいね」と喜びを話していただけるような、そんなお店を目標に考えているわけです。

二つ目の課題は大きなものです。農業をはじめとして仕入れ先や得意先とのコラボレーションで、お客様がどんなメニューを望んでいるのか、相互に情報交換をしながら検討し合うこと、それが大きな未来への第二の課題ではないかと思っております。

最後に皆様にぜひお願いしたいことは、「厳しさと優しさ」をぜひ履行していただきたいことです。市場では非常に厳しい競争があるわけですが、しかし、ひとたび協会に集まって、我々は協会として何をするべきなのか、社会に対してどうあればよいのかを検討し合う時には、ぜひとも厳しさと優しさをもって協会の事業活動に進んでご賛同をいただければありがたいと思います。

社団法人日本フードサービス協会

われわれの誓い

食とホスピタリティを通し、お客様とともに喜びを分かち合うこと、それがわれわれの原点です。

1 お客様に満足していただけるよう、ホスピタリティの向上に努めます。
2 お客様に安心していただけるよう、安全で健康的な食の提供に努めます。
3 食と農の連携により、潤いのある食生活への貢献と内外に向けた日本の食文化の普及に努めます。
4 地球温暖化の防止など、環境問題への積極的な取り組みに努めます。
5 社会の一員として、雇用の創造と地域社会の発展に努めます。

特集

農林水産大臣表彰受賞者（感謝状授与）

田中 博	㈱京樽元代表取締役社長
田沼 千秋	㈱グリーンハウス代表取締役社長
上嶋 棟一郎	スエヒロ商事㈱代表取締役社長
田邊 清八郎	㈱銀たなべ代表取締役社長
佐竹 力總	㈱美濃吉代表取締役社長
後藤 四郎	㈱ハチバン代表取締役社長
櫻田 厚	㈱モスフードサービス代表取締役社長

（敬称略）

協会会長賞　個人表彰受賞者

（外食産業及び協会事業に貢献された方々への感謝の記念品贈呈）

重原 文彦	（NRA 国際交流・海外研修）
中嶋 常允	（食農連携）
小林 晃	（教育研修・商品戦略講座）
力石 寛夫	（教育研修・サービス研修）
高橋 正彦	（教育研修・組織活性化講座）
菅野 征	（JF 厚生年金基金設立活動）
上原 征彦	（日本フードサービス学会前会長）
青井 倫一	（日本フードサービス学会会長）
小野原 雪雄	（教育研修・経営セミナー）
清水 均	（教育研修・店長教育）
藤居 讓太郎	（教育研修）
武藤 佳恭	（情報システム）

（敬称略）

協会会長賞　会員企業表彰受賞者

（20 年以上在籍の会員企業へ感謝の記念品贈呈）

【正会員】

㈱アートカフェ
㈱アイビー・シー・エス
㈱あさくま
アサヒフードクリエイト㈱
㈱アジアル
味の民芸フードサービス㈱
㈱あっぷるアイビー
㈱イオンイーハート
泉レストラン㈱
㈱イタリアントマト
㈱壱番屋
一富士フードサービス㈱
㈱一六
㈱一品香
㈱伊藤組
今井観光㈱
㈱今佐
㈱ウェアハウス
㈱ウエスト
㈱梅屋
㈱王将フードサービス
㈱大志満
㈱オーバン
オリジン東秀㈱
㈱柿安本店
㈱加寿翁コーポレーション
㈱家族亭
㈱かに道楽
㈱鴨川グランドホテル
㈱カルラ
がんこフードサービス㈱
㈱木曽路
㈱吉光
キッコーマンレストラン㈱
㈱キャニー
㈱京樽
協和㈱
キリンシティ㈱
銀座アスター食品㈱
㈱銀装
㈱クオリス
㈱熊五郎
㈱グリーンハウス
㈱グリーンハウスフーズ
㈱グルメ杵屋
㈱クレープハウス・ユニ
㈱玄海
興国産業㈱
㈲高知パレスホテル
㈱神戸屋レストラン
㈱ココスジャパン
㈱小僧寿し本部
㈱サイゼリヤ
㈱サッポロライオン
サトレストランシステムズ㈱
㈱さわやか
サンエバー㈱
㈱サンデーサン
サンフード㈱
㈲三味
㈱サンローリー
三和実業㈱
㈱ジェーシー・コムサ
㈱資生堂パーラー
㈱芝寿し
㈱芝パークホテル
㈱治兵衛
㈱シャノアール
㈱聚楽
㈱春陽堂
昭和食品工業㈱
㈱食道園
㈱ジョナサン
シンエーフーヅ㈱
㈱心斎橋ミツヤ
スエヒロ商事㈱
㈱スエヒロレストランシステム
㈱すかいらーく
㈱寿司田
㈱鈴木
スタチオン㈱
西洋フード・コンパスグループ㈱
㈱セブン＆アイ・フードシステムズ
大同門㈱
㈱ダイナック
ダイヤ食品サービス㈱
大和実業㈱
㈱ダスキン
タニザワフーズ㈱
㈱ＷＤＩ
チタカ・インターナショナル・フーズ㈱
㈱中納言
千代田交易㈱
㈱チヨダコーポレーション
㈱青冥
㈱つばめ
㈱つぼハ
テンアライド㈱
東京ジューキ食品㈱
㈱東天紅
東武食品サービス㈱
東和産業㈱
㈱徳壽
㈱ドトールコーヒー
㈱トリコロール
㈱どん
㈱とんでん
㈱なか卯
㈱中村屋
㈱南京軒食品
㈱南部家敷
㈱西鉄プラザ
㈱日本レストランエンタプライズ
日本ケンタッキー・フライド・チキン㈱
㈱日本珈琲販売共同機構

日本パーティサービス㈱
㈱日本ヒュウマップ
㈱ニユートーキヨー
㈱ニューミュンヘン
㈱人形町今半
㈱馬車道
㈱ハチバン
㈱八仙閣
㈱ハナマサ・カルネステーション
㈱浜木綿
㈱ハングリータイガー
㈱パンドラ
Ｂ－Ｒサーティワンアイスクリーム㈱
㈱ビーエム
㈱ヒガ・インダストリーズ
㈲日比谷松本楼
㈱ヒューマックス
広越㈱
ファーストキッチン㈱
フードインクルーヴ㈱
㈱フードリーム
㈱福助
㈱不二家
㈱不二家フードサービス
㈱鮒忠
㈱プレナス
㈱フレンドリー
㈱ブロンコビリー
㈱聘珍樓
㈱平八亭
㈱ホッコク
㈱ボネール
㈱ポールスター
㈱マコト
㈱松屋フーズ
㈱万世
㈱三笠会館
三島食品㈱
㈱三ツ和
㈱美濃吉
㈱宮田商事
㈱三好野本店
㈱無洲
㈱モスフードサービス
㈱八千代
山大産業㈱
大和フーヅ㈱
ＵＣＣ上島珈琲㈱
㈱吉野家ホールディングス
㈱ライフフーズ
㈱蘭館
㈱リバーストン
㈱リンガーハット
㈱レストラン・ピガール
㈱レストランユック

ロイヤルホールディングス㈱
㈱ロッテリア
㈱若水
和幸㈱
㈱渡辺ハゲ天
ワタミ㈱

【賛助会員】

アサヒビール㈱
味の素㈱
味の素ゼネラルフーヅ㈱
㈱ＡＤＥＫＡ
ＡＤＥＫＡクリーンエイド㈱
アリアケジャパン㈱
㈱イクタツ
伊藤ハム㈱
エスアイアイ・データサービス㈱
エスビー食品㈱
ＮＥＣインフロンティア㈱
エム・シーシー食品㈱
㈱エムズ
大塚食品㈱
カゴメ㈱
㈱カザミ
㈱加ト吉
キーコーヒー㈱
北空知食品㈱
キッコーマン㈱
キユーピー㈱
キリンビール㈱
㈱久世
ケンコーマヨネーズ㈱
紅梅食品工業㈱
サッポロビール㈱
サントリービア＆スピリッツ㈱
讃陽食品工業㈱
三洋電機産機システム㈱
正田醤油㈱
昭和産業㈱
㈱神明
スターゼン㈱
全国農業協同組合連合会
全国米穀販売事業共済協同組合
千田みずほ㈱
仙波フーズ㈱
双日食料㈱
第一生命保険相互会社
太陽油脂㈱
タマノイ酢㈱
中央宣興㈱
デリカフーズ㈱
東京ガス㈱
東京電力㈱
東芝テック㈱
中沢フーズ㈱
中島水産㈱
㈱ナックスナカムラ
㈱ニチレイフーズ
ニッコー㈱
日昭産業㈱
日清フーズ㈱
日世㈱
日東ベスト㈱
㈱ニットー
日本水産㈱
日本製粉㈱
日本ハム㈱
日本コカ・コーラ㈱
日本生命保険相互会社
㈱日本調理師協会
日本電気㈱
㈱ノースイ
ハナマルキ㈱
㈱廣目屋
福島工業㈱
富士通㈱
㈱フジマック
プリマハム㈱
ホクレン農業協同組合連合会
㈱マルオカ
丸源飲料工業㈱
水野産業㈱
三井物産㈱
㈱ミツカン
㈱ミツハシ
ミツハシ・丸紅ライス㈱
三菱商事㈱
三菱 UFJ 信託銀行㈱
明治乳業㈱
明治屋商事㈱
㈱めいらくコーポレーション
モンテ物産㈱
㈱ヤマタネ
山屋食品㈱
ユーシーシーフーヅ㈱
理研ビタミン㈱
㈱ 菱食

個人表彰受賞者を代表して協会会長賞を受賞する重原文彦氏。

会員表彰受賞者を代表して協会会長賞を受賞する㈱マコトの山崎峰子氏

特集

JF 創立 35 周年記念パーティー

午後５時半より開かれた記念パーティーには協会（JF）の歴代会長・副会長及び会員企業の皆様はもとより、国会議員の先生方をはじめ日頃よりご指導をいただいている各界の皆様、内外の JRO 関係者の皆様、海外レストラン協会代表者の皆様などに参加していただき、総勢 1200 名の会場は文字通り熱気に包まれ、盛大な 35 周年記念パーティーとなった。

小沢鋭仁環境大臣ご挨拶（要旨）

本日は 35 周年の記念パーティーがこのように盛大に開かれましたことを心からお祝い申し上げます。おめでとうございます。ＪＦの皆様方が食品リサイクルでも大変がんばっておられることは、環境省としてもありがたい限りです。皆様方はいろいろな分野で社会に貢献しておられるわけでありまして、私ども民主党としてもこれからもしっかりとＪＦのみなさんと手を携えてがんばってまいりたいと思います。また環境省の立場からも、食品リサイクルをはじめ、ぜひ今後も皆様方のお力を賜りたいと存じます。最後に皆様方のますますのご健勝とご発展を祈念申し上げ、お祝いのご挨拶とさせていただきます。

谷垣禎一自民党総裁ご挨拶（要旨）

本日は 35 周年のめでたい節目を迎えられ、心からお祝いを申し上げます。この 35 年の間に外食産業が大きく発展し、また国際的にも日本の食文化に対する評価が大きく高まったのも、皆様のご努力の賜であろうと思います。これから日本が新たな成長を求める時に、第一次産業をどうしていくかという問題があるわけでが、そのときに地産地消、あるいは農業との連携、こういうことが一つの切り札ではないかと言われております。これについても外食産業の皆様に加わっていただかなければ、事は進んでいかないだろうと思います。この何年かは食の安全に関わるいろいろな事件がありました。そういう中で、外食産業の皆様がいろいろな工夫をされたことに感謝を申し上げます。経済が厳しい時ではありますが、皆様のますますのご発展を心からお祈り申し上げ、お祝いのご挨拶とさせていただきます。

阿南久全国消費者団体連絡会事務局長ご挨拶（要旨）

35 周年、まことにおめでとうございます。確かに消費者の暮らしは大変厳しい状況にありますが、こういう時こそ外食産業の皆さんに大きく期待申し上げたいと思います。少子高齢化が進み、家庭でのコミュニケーション、地域でのコミュニケーションが破壊されている状況です。ぜひここは食を通したコミュニケーションを使って、地域を再生していけるのではないかと考えております。食の安全・安心の確保、食育の推進、食文化の継承、周辺地域コミュニティの再生を共にやっていきたいと思っておりますので、これまでお世話になりましたが、今後も外食産業の大きなご協力をいただいていきたいと思っております。今後ともぜひよろしくお願い申し上げます。

（左）立錐の余地がないほど盛況な会場。

（下）時は瞬く間に過ぎ、安部修仁協会副会長の中締めで盛大な記念パーティーは余韻を残しながら終了した。壇上は現会長・副会長、式典実行委員会の皆さん。

壇上に上がり、櫻田厚協会副会長・外食産業ジェフ厚生年金基金理事長の乾杯の音頭で乾杯する田沼会長、奥住顧問、及び歴代会長・副会長の皆さん。

乾杯の音頭をとる櫻田ジェフ厚生年金基金理事長。

（右）会場では、リンガーハットの食農連携、銀たなべの地産地消、康正産業の食品リサイクルが注目すべき取り組みとしてビデオで紹介された。写真は登壇して田沼会長より感謝の楯を受領するこれら企業の代表者と現場スタッフの皆さん。

（下）内外の優れた食材で調理されたメニューの数々を人垣が幾重にも囲む。あっという間になくなってしまう料理にシェフの皆さんも大忙し。